

つ・な・が・る

Tsu-na-ga-ru

7 月号 2022
July No.10



SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」
LINKED
plus+
病院を
知ろう

2040年に向けて 我々の歩む道は…。

院長就任記念特集

CONTENTS

- 1・2 岡崎市民病院
診療部門のご紹介
- 3 HOSPITAL NEWS

院長メッセージ

令和4年4月、院長に就任し、早くも数カ月が過ぎました。この間、当院と地域の医療体制を見つめ、地域医療の課題や方向性について考えを巡らせてきました。今回の特集では、そうした私の基本的な考えを地域の皆さんにわかりやすくお伝えしたいと思います。ぜひお目通しのほどよろしく願いいたします。

SPECIAL REPORT

2040年に向けて 我々の歩む道は…。

院長就任記念特集

岡崎市民病院の新院長が描く これからの病院と地域医療とは？

CHAPTER 01

すべての領域をカバーする オールラウンドの病院として。

令和4年4月、岡崎市民病院の院長に就任した小林 靖医師に、これからの病院運営について話を聞いた。

— 地域における岡崎市民病院の役割について、どのようにお考えですか。

小林 当院の役割は、大きく分けて二つあります。一つは、伝統として培ってきた救急医療です。以前は救急搬送が当院に一極集中し、多くの課題を抱えていました。でも、市内に藤田医科大学岡崎医療センターが新設され、互いに連携するようになり、本来の三次救急医療機関としての責務を果たせるようになりました。二つ目は、あらゆる領域の急性期疾患へのオールラウンドな対応です。どんな病気やケガでもきちんと診てほしい、という市民の期待に応えることが市民病院の大前提であり、これらも変わらない使命だと考えています。

— 今後、とくに伸ばしていきたい疾患領域はありますか。

小林 すべての疾患領域に対応できる医療体制をしっかりと整備しつつ、当院の得意分野である心・血管疾患（全身に血液を循環させる心臓や血管などが正常に働かなくなる疾患）の治療に力を入れていきたいと考えています。たとえば、経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）をはじめとした高度急性期医療の機能をさらに充実させ、地域

の患者さんにより質の高い医療を届けていくことを目指します。また、今後、スタッフの適正配置についても検討し、一ベッドあたりのスタッフ数を手厚くすることで、医療の質をさらに高めたいと構想しています。

— 心・血管系疾患の治療では、再発予防を含めた退院後のサポートも重要になりますね。

小林 その通りです。退院した患者さんに安心して療養していただく体制づくりにも力を入れていく考えです。そのために重要なのは地域連携です。回復期の医療を担う病院や在宅医療・介護を担う事業所とさらに緊密に連携し、退院後の生活を支えていきたいですね。「心不全・パンデミック」といって、高齢者の増加に伴い、心不全患者さんが大幅に増加することも予測されています。そうした将来も視野に入れて、しっかりと取り組んでいきます。

C O L U M N

●日本の高齢者は2025年まで急増し、2040年頃にピークを迎える。その一方で、医療・介護の担い手は急減し、医療・介護は深刻な事態に陥ると危惧されている。

●今より少ない人員で、医療・介護サービスを提供するには、医療機関の役割分担の見直しや、安心して在宅療養を続けるための地域の体制づくりなどが必要である。岡崎市民病院は今から、2040年問題を見据えて、地域医療の新たな仕組みづくりをめざしている。



2040年問題に 対応できる地域へ。

— 地域医療において、問題意識として感じていることはありますか？

小林 最大の関心事は、高齢者数がピークを迎える2040年問題(詳しくはコラム参照)です。それまでに、新しい地域医療体制を構築しなくてはならないと考えています。

— 具体的には？

小林 今後さらに増えていく在宅療養に、市民病院がもっと関わっていくべきだと思います。たとえば、訪問診療、訪問看護の展開。地域の在宅医療チームと役割分担し、重症度の高い患者さんを私たちが担当するなど、さまざまな形でサポートしていきたいですね。

— 退院支援にも力を入れる方針ですか。

小林 すでに、看護師が地域に出ていって、退院した患者さんがスムーズに生活できるように引き継ぐような活動をしています。そうしたことも拡充したいですね。また医

師も、退院したら終わりではなく、その後の診療に積極的に関わり、患者さんが当院とかけつけ医を循環して受診するような〈循環型の地域医療連携〉を進めたいと思います。

— そのための何か計画はありますか。

小林 地域医療連携室を再編し、患者さんのサポートを専門に担う組織を新しくつくる計画です。退院支援も含め、より患者さん一人ひとりをきめ細かく支援していきます。

— 最後に院長としての意気込みについてお願いします。

小林 職員によく言うのは「早く行くには一人で行った方がいい、遠くに行くにはみんなで行くといい」ということです。私たちがめざすのはもちろん、遠くに行くこと。そのためにも、みんなの協力が必要です。院内の職員はもちろん、地域の皆さんとも手を携えて、みんなが同じ目標に向かって努力し、この岡崎に必要な地域医療体制をつくっていききたいと思っています。

BACKSTAGE

超高齢化社会における 市民病院の役割。

● 地域の中核を担う病院には、幅広い急性期疾患にオールマイティに応える総合力が要求される。しかし、単にそれを実践するだけでは、地域の人々の安心の生活を支えることはできない。

● 高齢になっても病気になるっても、何の不安もなく暮らしていける地域づくり。そんな理想の地域のあり方を常に念頭におき、自分たちが何をすべきかを考え、実践することこそ、これからの市民病院に求められる使命ではないだろうか。



岡崎市民病院 診療部門のご紹介

岡崎市民病院では、専門性の高い機能を診療科や職種を連携させたチームや院内センターとして運営し、診療部門の充実を図っています。今回の記事では、各診療部門の取り組みや特徴をご紹介します。

詳しくはホームページをご覧ください。



救命救急センター

01

医療圏内唯一の第三次救急医療機関として、迅速・適切・高度な救急医療の提供を。

救命救急センターは、昭和57年の開設以来、40年にわたり地域救急医療の守の要として、その役割を担ってきました。西三河南部東医療圏（岡崎市・幸田町）唯一の第三次救急医療機関として重症患者さんの治療を中心に、年間8千台前後の救急車を受け入れて、地域の需要に応じた救急医療を提供しています。

周産期センター

02

地域周産期母子医療センターとして母子ともに安心できる医療を提供。

平成10年に、愛知県内に13カ所ある地域周産期母子医療センターの一つに指定された当院では、24時間体制で周産期に係る高度な医療を提供しています。産科部門では、ハイリスク妊娠、切迫早産などに対応。新生児部門では、超早産児から成熟児まで後遺症なき生存を目標に、両部門が緊密な連携を取り専門性や緊急性の高い診療を行っています。

集中治療センター

03

重症患者さんを1病棟で集中的に管理。多職種が連携し高度な医療を提供します。

集中治療センターは、ICU（集中治療室）、CCU（冠疾患集中治療室）、HCU（高度治療室）の3室からなり、集中治療に精通した医師を中心に各科からの担当医で24時間をカバーし、主治医と共に治療にあたっています。また、集中ケア認定看護師が在籍するほか、多職種が連携を取り重症患者さんの救命に全力を注いでいます。

認知症疾患医療センター

04

認知症の診断・治療、相談業務を担う拠点として、地域に貢献します。

認知症疾患医療センターは、地域における認知症疾患の保健医療水準の向上のため、愛知県から平成28年4月1日に岡崎市・幸田町を圏域としたセンターとして指定されました。当センターでは、保健・医療・介護機関等と連携を図りながら、認知症疾患に関する鑑別診断、認知症に関する専門的な医療・福祉の相談に応えてまいります。

がん医療・ゲノム医療診療部門

05

高度ながん医療と手厚い支援体制で患者さんの人生を支えていきます。

当院では、がん診療連携拠点病院として、がんの集学的治療を行うほか、令和2年には、がんゲノム医療連携病院に指定され、遺伝子変異に基づく新しい医療を推進。がん診療部門のさらなる連携・協力体制の確立のため、院内で診療部門を立ち上げました。高度ながん医療と手厚い支援体制で地域のがん診療に貢献してまいります。

緩和ケア診療部門

06

患者さんと家族が自分らしく過ごせるように、多職種で幅広くサポートをしていきます。

緩和ケアチーム、がんサポート外来、緩和ケア病棟の3部門が有機的に連携した診療部門を設置し、がんをはじめとする病気に伴う心と体の痛みを和らげ、患者さんご家族の〈生活の質〉を高めるための診療、ケアを行っています。また、地域の多職種と協力し、自宅で安心して過ごせるように在宅療養の支援も積極的に行っています。

血液透析・血液浄化治療部門 07

チームで密な連携を取り重症患者さんに対応。
安全、安心の血液透析、血液浄化療法を提供。

慢性腎臓病患者さんへの透析導入、外来透析患者さんの維持透析、他科入院患者さんへの透析を行っています。第三次救急を担う病院として、入院患者さんの多くが重症な状態であるため、スタッフ間で密なコミュニケーションを取り、患者さんの状態変化に対応した安全、安心な血液透析、血液浄化療法を行っています。

循環器診療部門 09

循環器内科、心臓血管外科の両科を軸に
多職種で結成されたハートチームが対応。

当院では、平成25年に愛知県初のハイブリッド手術室を稼働。平成29年から循環器診療部門を発足、外来でも内科と外科、多職種によるチーム医療を推進しています。令和2年11月より、経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)も開始。高齢化社会の到来に合わせ、生涯にわたって適切な時期に適切な治療を進められるよう尽力しています。

糖尿病診療部門 11

多職種が専門性を活かして、
患者さんに最適な糖尿病治療を。

市民の皆さんに最適な糖尿病診療を提供することを目的に、平成27年4月から医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士・歯科衛生士が専門性を活かした多職種チーム医療を行っています。一人ひとりにフィットした療養を患者さんへ提案し、実践可能な療養を患者さんと共に考えています。

腹腔鏡手術・減量手術部門 13

腹腔鏡に精通したスタッフによる
体に負担の少ない手術を安全に。

腹腔鏡手術は、体に数カ所小さな穴をあけ、そこからおなかの中や胸の中にカメラと手術器具を入れ、モニターを見ながら行う手術です。当センターでは、高解像度4K腹腔鏡システムを愛知県内でもいち早く導入し、腹腔鏡手術に精通したスタッフが専門性の高い手術を行っています。また腹腔鏡下での肥満症に対する腹腔鏡下胃縮小術(減量手術)も実施しています。

小児総合診療部門 08

こどもに関わる全てとその家族を
全チームで支えています。

岡崎市民病院小児科、周産期センター新生児部門、岡崎市こども発達医療センターが連携し、小児の総合的な診療機能の充実を図ることになりました。生まれ来る赤ちゃんの後遺症なき生存、小児全般の医療、発達に関する問題など総合的に医師、看護師、心理士、リハビリスタッフが丸となり、支えられる医療を提供いたします。

摂食嚥下栄養サポート部門 10

専門職の力を結集し、
お口や飲み込む機能・栄養をサポートします。

摂食嚥下(えんげ)栄養サポートチームは、〈口福を守るE.A.T〉の愛称のもと、栄養・嚥下・口腔機能に問題のある方、今後問題となることが予測される方に対し、栄養・嚥下・口腔チームなどの各専門医療チームが連携して活動しています。また、入院患者さんだけでなく、地域住民の皆さんを対象とした活動も行っています。

内視鏡診療部門 12

年間約6000件の消化器内視鏡診療を実施。
患者さんの状態・価値観に応じた医療を提供。

平成28年に内視鏡診療部門を開設し、年々高度化する消化器内視鏡診療を効率的に提供する役割を担っています。救命救急センターと連携し高度急性期医療の一翼を担うほか、消化器がんに対する低侵襲的な内視鏡治療に積極的に取り組んでいます。また、肝臓がんに対する経皮的ラジオ波焼灼療法(RFA)も多数行っています。

ロボット支援手術部門 14

ロボット支援手術の最新技術を磨き
安全第一の先進医療を提供します。

令和元年に手術支援ロボットダビンチを納入し、多職種によるダビンチに特化したチームを結成。令和2年4月に前立腺がんに対しロボット支援手術を開始し、腎がん、直腸がん、胃がん、膀胱がん、肺がんを対象を拡大してきました。今後も低侵襲治療対象疾患を拡充し、安全を第一に先進的なロボット支援手術を提供します。

医療技術局と看護局のユニフォームを一新。

岡崎市民病院では、令和4年7月1日から、医療技術局と看護局のユニフォームを変更しました。選択にあたっては着用するスタッフの意見や要望を取り入れ、デザイン性や快適性、動きやすさを重視。患者さんにもより親しみやすさを感じていただけるユニフォームとなりました。スタッフ一同気持ちも新たに、さらなる努力をまいります。

スタイリッシュで動きやすい!

岡崎市といえば、「オカザえもん」



「ミッフィー」も登場!



\\ I LOVE OKAZAKI! //



軽くて丈夫。そして快適です。



選定療養費(非紹介患者初診加算料・再診患者加算料)改定のお知らせ

令和4年度診療報酬改定に伴い、10月1日より選定療養費を下記の通り改定させていただきます。皆さまのご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

初診	5,500円	▶	7,700円(税込)
再診	2,750円	▶	3,300円(税込)

選定療養費は、紹介状を持参されない患者さんに対して、一定額の自己負担をお支払いいただくものです。大規模病院の混雑緩和などを目的として、厚生労働省により義務化されています。



20分で聞けちゃう! 旬の健康情報

エフエムEGAO「イブニングワイド」で当院の医療スタッフが健康情報を発信!

「いまどき旬」コーナー 18:00~

令和4年 夏の水分補給~清涼飲料水を上手に選ぶ!~
7月28日(木) 栄養管理室 室長 築瀬徳子

8月25日(木) 骨の健康、骨粗鬆症を知ろう
リハビリテーション科 統括部長 大西哲朗

9月1日(木) これって認知症!?
ひとりで悩んでいませんか?
認知症疾患医療センター 社会福祉士 杉浦裕子
精神保健福祉士 矢内美和



エフエム EGAO (76.3MHz)



これまでの放送内容は
こちらから!

病院広報誌 特設サイト

つながる Tsu-na-ga-ru



こちらから



LINE(公式) アカウント

こちらから

